授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 21 号

壮年期にある軽症脳卒中患者のセルフマネジメント自己評価尺度の開発と活用可能性の検討

(Development and Verification of a Self-management Scale in middle-aged mild stroke survivors)

内田　香里（うちだ　かおり）

博士（看護学）

論文審査結果の要旨

本論文は、壮年期における軽症脳卒中患者のセルフマネジメントを測定する自己評価尺度を作成し、活用可能性を検討した先駆的な研究である。最近では急性期治療の向上により、脳卒中の後遺症が軽症に止まる壮年期の患者が増加傾向にある。一方、再発率は高く再発のたびに重症化をきたすため、セルフマネジメントの維持は重要である。研究 1 では、インタビュー調査により壮年期にある軽症脳卒中患者のセルフマネジメントの実態が明らかにされ、【セルフマネジメント方策の自己決定への思索】、【セルフマネジメントの実践と生活に合わせた洗練】、【自己に合った資源の選択と活用】、【悪化予防のための医療者との協働】の 4 概念に集約された。研究 2 では、4 概念に含まれる内容を質問文に置き換えた質問紙調査から、探索的因子分析および確証的因子分析が行われた。尺度は＜脳卒中悪化予防への思索＞、＜資源の活用と医療者との協働＞、＜後遺症と心理的安寧を保つための行動＞、＜自己の生活に合わせたセルフマネジメントの実施＞の 4 因子 18 項目で構成され、一定の構成概念妥当性が示された。高血圧自己管理度測定尺度と中等度の相関を示し基準関連妥当性が支持され、Cronbach α係数は各因子共に 0.8 前後で質問項目の信頼性も確保された。研究 3 の活用可能性では、セルフマネジメントの先行要件、帰結を要因に弁別力が比較検討された。長期罹病者、薬物療法者、高血圧併存者がセルフマネジメントを実施する傾向にあり、これらの疾患に対する脆弱性の認知を起因とするもの、補助具使用や心理的支援に関する弁別力がみられた。本研究により、壮年期の軽症脳卒中患者が疾患による脆弱性やすでに実施しているセルフマネジメントに気づき、さらに生活に則した洗練に活用できるツールとして活用可能な、有用性の高い新しい尺度が開発された。

よって、本論文は博士(看護学)の学位を授与するに値するものと判定した。